

- ① 内科救急医講習会
- ② ALSO講習会
- ③ 神経救急蘇生講習会
H25年度利用統計
H26年度利用統計
- ④ 交通案内・利用方法 など



愛知県地域医療再生計画により設立された、名古屋市立大学病院臨床シミュレーションセンターは、新生児医療、周産期医療、救急医療の3領域の研修を通じて地域の医療安全の確保とチーム医療の向上を目指します。

内科救急医講習会 (JMECC)

「JMECC(ジェイメック: Japanese Medical Emergency Care Course)」とは日本内科学会認定の内科救急およびICLS講習会です。内科医が、心停止時のみならず、緊急を要する急病患者に対応できるよう、日本救急医学会認定救急蘇生講習会「ICLS」を基礎に、日本内科学会が独自に「内科救急」をプログラムに導入したものです。午前中に心停止に対する対応を、午後に内科救急を含めた救急対応と、その後の心停止に対して一連の対応を学ぶ構成の1日コースとなっています。今後、内科認定医試験あるいは新・内科専門医認定試験などにおいて、JMECC受講が必須化される方向が示されており、内科医が受講すべき基本的な救急コースになるとされています。大学病院を主体に整備が進められ、当センターでも2013年12月1日に第1回名市大JMECCを開催し、10名が受講されました。通常のICLS講習では主に心停止に至った場合の救急対応を学びますが、本講習では心停止に至らぬように、その一步手前で行う内科的な救急対応の仕方を学ぶとともに、更にそれでも急変して心停止した際の速やかで連続した対応変化を習得して頂くことができ、大変有益な講習会となりました。まだインストラクターが少なく、その育成も兼ねておりますので、指導者側にとっても非常に有用です。今後は、受講者及び指導経験者の拡充を目指して毎年継続的に開催していく必要があると考えております。今後の開催日程はJMECCのホームページ (<http://jmecc.net/>)へ掲載されますので、よろしくお願いいたします。



兼松 孝好
総合内科 講師



JMECCの実際



ALSO (Advanced Life Support in Obstetrics) in 名古屋市立大学



尾崎 康彦
分娩育成先端医療センター
副センター長
産科婦人科准教授

我々の願いは一つ。“安全なお産”です。少子化の進む日本でもハイリスク分娩は増加しています。またひとつひとつの妊娠や分娩に関わる医療もより濃厚なものになってきています。世界に誇る高い日本の周産期医療レベルを維持するため、分娩に携わる医師、助産師、看護師、救命救急士らがより高い知識と技術を身につけることが重要です。

ALSOとは医師やその他の医療プロバイダーが周産期救急に効果的に対処できる知識や能力を発展・維持するための教育プログラムです。1993年にアメリカ家庭医学会によって正式に認定され、現在アメリカではほとんどの分娩施設において分娩に関わる医療スタッフがALSOに受講を義務付けられています。本プログラムは極めて高く評価され、現在では世界的に普及しています。

日本では2008年に初めて開催され、昨年12月に当クリニカルシミュレーションセンターにおいて産婦人科医、家庭医、初期研修医や助産師らが全国から30名（受講希望者90名）が集まり、愛知県で初開催されました。

講習内容は周産期救急現場における対処法についてのレクチャーとシミュレーターを用いた実技学習のワークショップです。受講者は2日間のコースを受講し筆記試験とメガデリバリー（実技試験）に合格すると、ALSO Japanより5年間有効の認定書を授与されます。

今年も12月に開催予定です。周産期医療への情熱の漲る、皆さまの受講をお待ちしています。
お見逃しなく！（ALSO Japan: http://www.oppic.net/item.php?pn=also_japan.php）



神経救急蘇生講習会（ISLS）

ISLSコースは Immediate Stroke Life Support の頭文字をとったもので、脳卒中初期診療のシミュレーション講習です。脳の病気は難しそうで、と苦手意識を持っている方も多いと思います。しかし、脳卒中は国民病と言っていいほど多くの患者があり、日常診療上出会うことも多く、苦手だからと言って避けて通れるものではありません。しかも、脳卒中の治療は時間を無駄にできないという一面があります。脳卒中の治療に長けたスタッフがいたとしても、そこに患者さんが来るまでに時間がかかったとしたら、しっかりとした治療ができないわけです。

では、脳卒中の患者さんをはじめに診たものが、無駄なく初期対応をして専門家に受け渡すにはどうしたらいいか？スタッフ間で意識を共有するにはどうすればいいか？といった観点から2006年にISLSコースが開発され、普及していきました。

現在、この愛知県ではISLS中部という団体を中心に2カ月に1度ほど講習会が開かれており、名古屋市立大学病院でも2010年8月に初めて開催され、以降定期的に開催されています。当院で

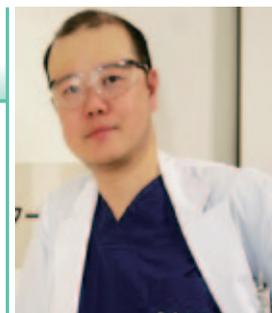


2013年12月に開催されたコースの一場面

実際に行われているコースでは午前中に座学を行い、午後より模擬患者を用いて、意識障害の評価の仕方、神経所見の取り方、実際の診療の仕方といったシミュレーション講習を行っています。

幸い当院でのコースは好評であり、毎回全国からの受講生で賑わっています。

脳の病気に苦手意識を持っている方も、そうでない方も是非一度経験してみてください。



三浦 敏靖
救命救急センター

平成 26 年度 センター利用者数

(単位：名)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	総計
利用人数	全体	1114	1035	1070	807	938	836	5800
	うち学外	71	161	442	240	305	450	1669
利用件数		56	48	49	35	26	49	263

平成 25 年度 センター利用者数

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
全体	1340	1297	1368	1074	856	613	1113	942	956	768	732	617	11676
うち学外	174	291	560	472	122	318	396	272	454	119	200	183	3561
利用件数	54	61	59	52	27	44	58	53	58	42	39	24	571

新任副センター長紹介



長崎 理香 (小児科)

胎児超音波研究会、新生児蘇生法講習会を担当しています。

会を通じて、様々な技術、知識を共有し、臨床の現場に還元していくことができればと思います。

よろしくお願いいたします。

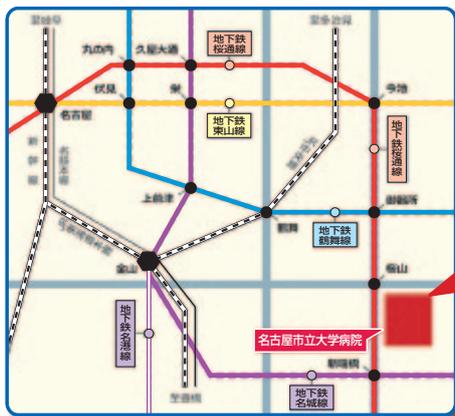
編集後記



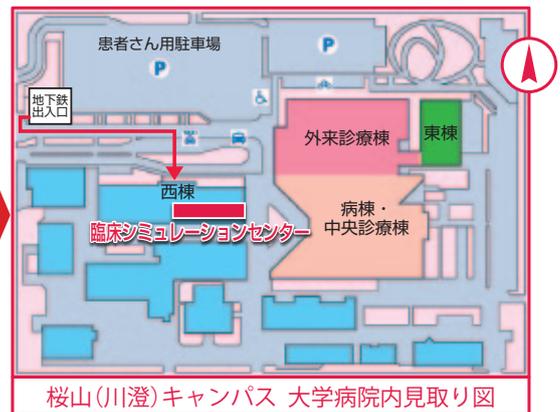
笹野 寛
臨床シミュレーションセンター
センター長

シミュレーション講習会は、教科書を読むだけでは身につかない知識・技術を自分のものにする良い機会になります。特に、自分が専門としないが、接することのある分野の知識を手に入れる機会としては最適です。また、自分の専門分野では、インストラクターとして教える側に回ると毎回新しい発見があります。自分の経験でも、産科領域の講習会で双手圧迫法の止血を学んだ後に、産科開業医の先生のところの患者急変の応援に行ったことがあり、習ったことが直ちに役立った経験があります。今後も地域の医療従事者の方が是非参加したいと思う講習会を開催することが、地域の医療安全とチーム医療の向上に役立つものと確信しています。

交通案内



名古屋市立大学病院
西棟 1階



桜山(川澄)キャンパス 大学病院内見取り図

[交通機関]

地下鉄 桜通線「桜山」駅下車 3番出口
市バス 金山7番のりばより 金山12「市立大学病院」下車
金山8番のりばより 金山14「市立大学病院」下車
(一般用駐車場がありませんので、公共交通機関でお越し下さい)

利用方法

- ・ ホームページ (URL <http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/simncu/index.html>) より利用申請書・不動産一時貸付申請書をダウンロードしてFAX、郵送または受付まで持参していただきますと、センターで利用許可証を発行します。
- ・ 使用予定日の6ヶ月前の月の最初の平日よりお申し込みいただけます。
- ・ 特にセンターの設立目的に合った利用のみは6か月以上先の予約でも受け付けます。従って、第1受付日でも既にお申し込みいただけない日ができる場合がございます。ご注意ください。最新の施設空き状況は、お電話にてお問い合わせください。
- ・ 使用目的、使用計画などをお知らせいただきセンター設立目的に合わないものは利用をお断りすることがございます。詳しくは、センターホームページをご覧ください。センター事務室までお問い合わせください。
- ・ 敷地内及び周辺道路における禁煙を実施しています。

受付時間

月～金 9時から17時 (祝日除く)

vol.8
(2014.10)

発行：名古屋市立大学病院臨床シミュレーションセンター
電話 052-853-8429 FAX 052-853-8436

E-mail simncu@med.nagoya-cu.ac.jp URL <http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/simncu/index.html>